

Title	「知的資本のマネジメント」のシステムとプロセス - 百貨店業態の脱成熟化のマネジメントとしての有効性 -
Sub Title	
Author	内田裕二(Uchida, Yuuji) 山根節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1491号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1491

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	山根 研究会	学籍番号	89828131	氏名	内田 裕二
(論文題名)					
「知的資本のマネジメント」のシステムとプロセス — 百貨店業態の脱成熟化のマネジメントとしての有効性 —					
(内容の要旨)					
<p>百貨店業態の成熟した準拠体系を再定義し、新しい準拠体系に導く方法論として「知的資本のマネジメント」の有効性を探った。「知的資本のマネジメント」とは、顧客・従業員・サプライヤーの保有する知恵やスキルを、企業のコア能力の源泉となる「資本」と位置付け、その効果的な調達と、コア能力への変換、そして知的資産として蓄積する仕組みまでをトータルにマネジメントするためのシステムとプロセスのことである。</p> <p>研究を通して分かったことは、「知的資本のマネジメント」が採用するインクリメンタルな手法が、組織文化に直接的な影響を与えるため、企業革新のマネジメントとして非常に適的な手法であること、特に試行錯誤が必要な成熟業態に適合性が良いということである。革新事例への仮説モデルの整合性も良く、効果的な導入をすることができれば、新しい準拠体系を構築するために必要な能力を創造しうる可能性が示唆された。</p> <p>導入は、システムとプロセスを相互補完的に進行させるのが、効果的と思われる。そのためには、トップが組織に「ゆさぶり」をかけ、最初の突出集団を引き出すことが重要である。</p>					